

聖霊降臨節第2主日礼拝説教要旨(5月31日)

『恵みの到来』清瀬證子教師

ヨハネによる福音書 2:1-12

ガリラヤのカナと言う所で、婚礼がありました。パレスチナ地方の結婚式には、一週間位、宴が続く盛大な祝宴があります。当時、人々は貧困の中、人生におけるつかの間の輝きと喜びを結婚式の中に見出しておりました。

そこに主イエス様が4~5人の弟子達と共に招かれます。主の母、マリヤの親戚すじの婚宴であったと推測されています。その祝宴のさなかに、ぶどう酒がなくなってしまったのです。母は主イエス様にその事を知らせます。主は、「私の時はまだ来ていない」と、きっぱりお答えになりました。しかし、母マリヤの信仰の願いに応じて、一筋の神の栄光をお見せになりました。それが、「カナの婚宴の奇跡」です。

そこには、ユダヤ人達が清めの儀式に使う水がめが6つありました。この6という数字は、未完成、不完全の意味があります。明らかにこれは、律法の不完全さを表わしていると思われまます。律法の本当の意味を捨てて、人々を苦しめている。そう言う指導者達の中に、恵みの福音を現わすために来られたイエス様。その御業が行われようとしていました。主は水がめの中に水をいっぱい入れなさい、と言われました。召使いがその水がめを運んで行くと、その水はぶどう酒に変わっていたのです。しかも、今迄よりも良いぶどう酒だった。

この出来事は福音の到来を示す最初の栄光であるとヨハネ福音書は語ります。イエス・キリストの恵みの福音は律法から解放しました。そして、すべての人々に差別なく与えられる神の偉大な救いの業なのです。私達はこの救いのおとずれを、心に受け容れて新しい人生を歩み始めて行きたいものです。